

# 神山認定こども園



言語の敏感期を支える  
様々な教具教材  
(果物の実物合わせ)



運動の敏感期を支える  
工夫された園庭 (インファントコミュニティー)  
坂を駆け登る



感覚の敏感期 (視覚教具)  
三原色の色水の混合  
赤+青=紫 青+黄=緑

## ～小学校が目指すアクティブラーニングに継げるために～

「小学校の学習指導要領」が目指す「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)に継げるため、私達は自然が定めたプログラムに従って、順を追って現れてくる生命力、即ち「敏感期」を知り、敏感期を見逃さず、成長に寄り添い、これをうまく学びに生かし、環境を整備し、子どもの自発的活動・主体的活動に継げています。私達は、こども達の自ら伸びようとする力を尊重し、その生命と魂に仕えます。



小さいものへの敏感期  
「ほら、かえるを見つけたよ!!」



秩序の敏感期 (ベックボード)  
色より分け、分類  
数・色・規則性など知性の現れ



礼儀・作法の敏感期 (出欠報告)  
日常活動 (社交的ふるまい)

### 文化の敏感期



人種の紹介  
黄色人種・白人・黒人  
世界の主食  
御飯・パン・トドレーヤ



葉のタンス (葉の形の名前)  
せんけい、ほこがた、やじりがたなど

### 子どもの「敏感期」

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳
<b>言語の敏感期</b> 5歳前	幼児のときから音や声を聞き始め、言葉を習得する時期。人の話を熱心に聞き、自分でも話し始める。文字を読むことや、書くことを始める。						
<b>運動の敏感期</b> 0-6歳	自分の体が思い通りに動かせることが嬉しい時期。立つ、座る、這ぶなどの基本的な動作を身につける。手先の細かい運動もできるようになる。						
<b>感覚の敏感期</b> 0-6歳	五感を働かせる時期。見る(視覚)、聞く(聴覚)、触れる(触覚)、かぐ(嗅覚)、味わう(味覚)が研ぎ澄まされる。その情報を整理、分類する。						
<b>秩序の敏感期</b> 6歳前	物事の順番や置き場所へのこだわりが出てくる。「同じことを同じ順序」でやりたがりたり、物をまっすぐに並べ続けたりする。						
<b>小さいものへの敏感期</b> 7歳前	大人が見過ごしてしまうような小さなものへのこだわりが見られる。小さなゴミを拾って見せたり、小さなものをつまんで遊んだりする。						
<b>礼儀・作法の敏感期</b> 3-6歳	大人の姿を見て、生活の中にあいさつや身だしなみなどの礼儀やマナーがあることに気付く。人間関係に興味を持つ。						
<b>文化の敏感期</b> 4歳前	周囲の世界へ関心が生まれる。植物、動物、紙物、宇宙、歴史、地理などに興味を示す。						
<b>数の敏感期</b> 4歳前	なんでも数えたり、声に出して数えだす。数字に気が付き、数の概念がわかるようになってくる。年齢や日付、量にも関心が増える。						

### 数の敏感期



$(a + b + c)^3$   
三項式のピース



数字の概念  
1~5のシボルと量の一致

※名誉園長 松浦公紀先生の著書

「6歳までに一生を支える力を育てる」モンテッソーリ子育て15か条より引用